



バレンタインにちなんだ新商品も！ 「障害者のつくる品物フェア」を開催しました。

本日、杉並区役所（阿佐谷南1-15-1）で、区内の障害者施設が一堂に集まり、手作り品やパン、菓子などを販売する「障害者のつくる品物フェア」が開かれました。これは、より多くの人に商品を知ってもらい、利用者の工賃アップにつなげようと、年3～4回行われている催しです。

今回は12施設が出店し、バレンタインデー直前ということから、チョコレートを材料に使った菓子や石鹸なども並び、会場は甘～い香りに包まれました。

区内の障害者施設では、利用者の工賃アップにつなげるため、日頃から魅力ある自主生産品の製作や販売に取り組んでいます。手工芸品が得意な施設やパンや菓子などの食品に力をいれる施設など様々で、中にはファンがつくほどの商品もあります。普段は、区役所1階のロビーで、施設が日替わりでワゴン販売を行っていますが、より多くの人に来てもらおうと、年に3～4回、区内の施設が一堂に集まり、こうしたフェアを行っています。

本日は、12施設が参加し、クッキーやパン、マフラー、ビーズ製品といった普段の商品に加えて、ハート形のケーキやチョコレートのお菓子、メッセージカード、そして原料にチョコレートを加えた石鹸など、バレンタインデーを意識した商品が並びました。赤い包み紙でかわいらしく包装されたチョコを手にしたお客さんに、「それは、季節限定なんですよ。」と積極的に声をかける利用者の姿も見られ、会場は大いににぎわいました。



参加施設のひとつ、ワークショップ・

かたつむりの施設長・森一生さんは、「フェアは利用者にとっても楽しみで、モチベーションがあがります。商品の並べ方やお客さんとの対話をどうしたらもっと良くできるか、工夫しながら取り組んでいます。フェアでは、他の施設の良いところを吸収できるチャンスでもあり、施設同士が切磋琢磨できる場でもあります。今後もお客さんが本当に欲しい、買いたいと思ってもらえるものを作りたいです。」と話していました。

次回の「障害者のつくる品物フェア」は、5月に開催予定です。

【問い合わせ先】

障害者生活支援課 電話 3312-2111（代表）